



BEFORE



AFTER

次号も引き続きこだわりのDIYリノベーションの様子をご紹介します予定にしています。

入所者様の飲食・娯楽用にと欠かすことの出来ない、ホールのテーブル。長年使用されてきたテーブルたちは、天板が草臥れ、明るいホールの雰囲気にならなくて「映え」しないものでした。そこで当苑の「DIYお家芸」職員（職人？）の出番。天板の窪みにパテを埋め、真つ平に削り、そして塗装を施し、「なんといいことでしょう！」素敵なアンティーク調テーブルに生まれ変わりました。現在、ポップな単色のものから、カラフルな多色使いのものまで、個性豊かな色とりどりのテーブルたちが、ホールに彩を添えています。

また、テレビ台に使っていたデスクにもレンガ調シートを貼り可愛らしくリニューアルしてみたり、他にもまだ続々とリノベーション計画。当苑のホールは現在進行形で進化（新化）を続けています。

生活の舞台 第4回目・こだわりのDIYリノベーション①



令和八年 あけまして
おめでとぅございます

1月 お誕生日おめでとうございます



100th anniversary

1月はたくさんの方が誕生日を迎えられました。中でも写真中央の稲田マサエ様は、100歳を迎えられました！！

今月の予定（2月）

石橋胃腸内科医院 回診（毎月曜日）

2日、9日、16日

ますゆき皮膚科クリニック 回診

5日（木）

小倉南歯科医院 回診（毎火・木曜日）

3日、5日、10日、12日、17日、19日、24日、26日

ビューティヘルパー（訪問理美容）

18日（水）

節分

3日（火）

ふたばよもやま話（第三十六回）

～小倉藩最後刀匠『紀政廣』～

小倉南区の九州道小倉南インター南から旧国道322号線に入ると、目倉バス停があります。この付近にある古びた説明板に「豊前刀鍛刀場跡」と書かれています。当地にはかつて、刀を作る工房があったとのこと。小倉藩最後の刀匠は「紀政廣」という人で、彼が鍛えた日本刀が今に遺されています。

慶応三年八月、小倉藩の藩士と家族達は長州藩との戦に敗れ、小倉城下より田川郡香春へ疎開してきます。刀には「慶應三年八月」の銘があり、疎開先の香春で鍛刀されたにもかかわらず銘には「小倉住」と続きます。城下は長州に占領されているものの、必ず奪還するとの思いを込め、小倉藩士のために刀を鍛えたのかもしれない。

政廣の弟子に紀政行、その息子に政次がいますが、政行は小倉南区高津尾に鍛刀場をもうけ、昭和9年にはその子政次との合作の短刀が帝国美術展に入賞するなど、わが国有数の刀匠として名を成し、豊前刀（小倉刀）の伝統を世に広めました。しかし政次の死後、備前伝晒鍛の秘伝は、永遠に小倉の地から消えました。



慶応三年八月、豊前小倉住の銘がある脇差と、豊前刀鍛刀場跡を示す説明板。小倉藩の歴史を伝える説明板は苔むしており、訪ねる人すらも極めて希である。



【編集雑記】▼今冬、雪が例年になく少ない。雨さえも降らず、記録的な少雨の冬となっている。よく農家の人が言うには、「雨は地表を流れるだけで、川となつて海に注ぐだけだが、雪は徐々に解けるため地中に染み、地下水となつて時間をかけて地表に湧き出してくる」と。つまり雪の少ない年は春から夏場にかけて水不足となるわけである▼昭和39年は記録的な大豪雪の年であった。小倉南区と境を接する田川郡香春町採銅所では、年明けから1ヶ月間雪が降り、最も深くは駅のホームの高さ、約70センチにも達した。その後も何度かドカ雪の年もあったが、最近では本当に雪が降らない。雪国さながらに「カマクラ」をつくり、中に七輪を持ち込んで餅を焼いたなどと現在の子どもたちに言っても、信用しないだろう▼福岡県でも特に北九州地方は日本海に面し、冬場は曇天や雪が多い地域である。郷土料理の一つに鍋物があるが、それも気候の影響が大きいのではないだろうか▼現代では暖房器具も発達し、入所者様が第一線で働いていた頃に比べ随分と生活は楽になったと思う。電気器具や石油で、室内は寒い思いをしなくて過ごせる。また農業においても、ビニールハウスや暖房施設によって季節外れの野菜の栽培もできるようになった▼炭や薪、練炭こたつなどで暖をとっていた入所者様の苦勞の時代を思うと、感謝の念に堪えない。